

「この苦難はあなたがたの栄光なのです」

2019年02月13日

エフェソの信徒への手紙3章10節～13節 こうして、いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、天上の支配や権威に知らされるようになったのですが、これは、神がわたしたちの主キリスト・イエスによって実現された永遠の計画に沿うものです。わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます。だから、あなたがたのためにわたしが受けている苦難を見て、落胆しないでください。この苦難はあなたがたの栄光なのです。

「著者」は、異邦人伝道者に立てられたパウロの使命と苦難を通して、神の知恵について語っている。ユダヤ教徒であった時、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていた最も小さい者であった私に、神は恵みを賜り、福音に仕え、異邦人に福音を全力で告げ知らせる伝道者として用いてくださった。神の働きであった。神のこの不思議な知恵は、キリスト以前の人々には知らされていなかったが、今は、教会によって天上にまで知らされ、神の永遠の計画に沿うものであると述べている。

パウロが異邦人伝道者として立てられ、福音が受け入れられている事実について、「こうして、いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、天上の支配や権威に知らされるようになったのですが、これは、神がわたしたちの主キリスト・イエスによって実現された永遠の計画に沿うものです」と書いている。パウロの福音宣教によって、異邦人も福音を受け入れ、キリスト・イエスにおいて、約束されたものを私たちと一緒に受け継ぐ者、同じ約束にあずかる者となることが神の計画であると言う。キリストの体である教会という目に見える、新しい形をとおして、天上の諸力に神の知恵を知らせている。隔ての中垣を取り除き、平和を実現している教会が出現したことが、天上に映し出されていると語っている。

「わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます。」ヘブライ書も、「だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか」と、神に近づくという言葉をししばし用いている。しかし、パウロは、「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです（ガラテヤ2:20）」とさらに力強い。そして、「だから、あなたがたのためにわたしが受けている苦難を見て、落胆しないでください。この苦難はあなたがたの栄光なのです」という言葉は、いかにもパウロらしい。パウロにおいては、イエス・キリストへの信従と福音宣教は「苦難」という言葉が結びついている。「あなたがたには、キリストを信じるだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです（フィリピ1:29）。」パウロの信仰の核心は、「わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです」である。パウロは今、苦難のただ中にある。その苦難を見て落胆する必要はない。キリストの十字架の苦難とつながり、復活の命に与るのである。即ち、パウロが受けている苦難を通して、キリストの福音が前進し、神の栄光を、生ける神をあなたがたは見ることができると言っている訳である。